

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学研究科
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 交換留学制度、EUIJの制度等を利用した積極的な海外での研究活動に対する支援。	→留学生数、EUIJプログラム参加者数の増加。	B
2. 海外での学会、ワークショップへの参加の支援。	→法人への働きかけを通じた支援制度の実現。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目7.0.1	(現状説明) アジアを中心に多数の留学生が在籍しているが、大学院生の留学についてはあまり活発ではない。
☆ 小項目7.0.2	(現状説明) 国外から客員教員を招聘したり、国外から教員が来学した際に「商学セミナー（ゼミナール形式の研究会）」を開催するなど国際交流は適切に行われている。
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学研究科】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	6	15	17	20	28	
			交換	人	0	1	1	0	1	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	9.5	34.1	40.5	50.0	49.1	外国人留学生(正規)÷在籍学生数
			交換	%	0.0	2.3	2.4	0.0	1.8	外国人留学生(非正規)÷在籍学生数
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—				
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—		
		人 数	長期	人	0	0	0	0	0	
			短期	人	0	0	0	0	0	
		在籍学生比率	長期	%	0	0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	0.0	0.0	0.0	0.0	0		
		短期	人	0	0	0	0	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	0	0	0	0	0		
		短期	人	0	0	0	0	0		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	—		

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む

注) 長期、短期について

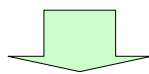
指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 7.0.1	全学的に大学院海外助成金制度が制定された。
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



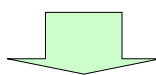
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 7.0.1	大学院海外助成金制度についてさらに学生に周知する。
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	法人の予算削減により「商学セミナー」を開催する原資がゼロになったため、学部予算を削って確保している。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	法人に予算の確保を要求する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述) 2009年度末に目標を設定したところであり、この4か月弱の間になしうる改善はすべて行われている。また、この間に新たに改善すべき事項は発生していない。

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○海外からの留学生は増加傾向だが、本学の学生の派遣が全くない。教員も含めた意識の喚起が必要ではないでしょうか。検討が望まれます。また、「予算」の言及がありますが、他の学部も同様な状況ではないでしょうか。調査、検討が望まれます。

【学内委員】

○小項目7.0.1の説明においては、まず(方針)として、方針そのものを記述してから、現状説明してください。

○小項目7.0.1は方針の明示が内容です。従って、方針があるのかないのか、ある場合は方針の内容を記述してください。

○小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での現状説明とされることが適切です。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてもう少し詳しく現状説明されることを希望します。

○小項目7.0.2の現状説明は、どのように適切に行なっているのかについてももう少し説明をお願いします。特定6項目データを利用して説明されることを希望します。

○現状説明の小項目7.0.1については、(方針)を記述してください。また、現状説明も、その方針に対応する説明としてください。小項目7.0.2については、他の要素も含めた、もう少し詳しい記述をしてください。

○改善すべき事項、改善方策の記述は、あまり報告書としてはふさわしいものとは言えないのではないのでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 「現状説明」7.0.1：商学研究科は、その研究領域が他研究科に比べても突出して多様性、国際性に富んでいることから、学生の受け入れにあたって、積極的に海外からの学生を受け入れようとしている。そのことは、近年、在学生数の約半数が留学生によって占められていることから明らかである。他方、在学生の海外留学、海外での学会発表等についてはあまり活発ではなく、学生への動機づけや支援が望まれるところである。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
